Nursing Akita

# わたしのまちの看護師さん「こまち」紹介 [シリーズ 認定看護師]

- ◎認定看護師連絡会議・研修会報告 ◎シリースおらほの職場自慢
- ◎秋田県看護学会報告
- ◎在宅会員交流会報告
- ◎シリーズ公益法人化に向けて
- ◎各地区活動紹介
- ○社会経済福祉委員会 情報提供
- ◎シッーズ輝いている人
- ◎環境:保健事業功労者表彰
- ◎推薦委員会からのお知らせ
- ◎事務局からのお知らせ

## 秋田県看護協会会報

平成22年度会員数

保健師

助産師 看護師







表紙/わたしのまちの看護師さん [シリーズ認定看護師] 「こまち」紹介 [左]武内 春子さん/JA秋田厚生連平鹿総合病院 [右]多田 豊一さん/JA秋田厚生連由利組合総合病院



# 目次

#### Contents



- 1 認定看護師連絡会議 • 研修会報告
- わたしのまちの看護師さん [シリーズ認定看護師]

# 「こまち」紹介

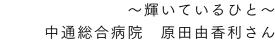
## 秋田県看護学会報告







- 各地区活動紹介 (大館/大仙・仙北/由利本荘・にかほ)
- 10 社会経済福祉委員会からの情報提供
- シリーズおらほの職場自慢 11 Vol.32 北秋田市民病院
- シリーズ リレー紹介 12 ~輝いているひと~







- 推薦委員会からのお知らせ 15
- 16 協会からのお知らせ
- 看護協会へのなんでもメッセージ 17





# 平成22年度認定看護師 連絡会議·研修会

# 実施報告

日時 平成22年9月28日(火)9:30~16:00

場所 秋田県看護センター 5階第一研修室

対象 秋田県内の認定看護師 参加者31名

目的 看護の質向上に貢献している認定看護師の今後の活動を支援するため、県内の認定看護師が一堂に会し、 状況把握や情報交換・相互連携の推進を図る。

#### 会議•研修内容

1.情報提供

会長「看護の動向と課題」

2. 講演

テ−マ□「新しいものを取り入れる組織に参加するために」

講師宮城大学看護学部准教授がん看護専門看護師菅原よしえ氏

#### 内容

厚生労働省主催「チーム医療推進のための検討委員会」では、看護師の役割拡大、看護師以外の医療スタッフの役割分担などについて検討されている。特定看護師(仮称)については検討段階である。現在、看護協会認定の専門看護師や認定看護師は、同職種間の認定資格であるため、看護職以外の職種にも認められる教育内容、資格認定が求められる。また、レヴィンの変革理論の方法を取り入れながら、「自分が組織を変えていく

というより、自分たちが組織の中で協力し、自分も組織の一人として変えていくのだと意識する必要がある。組織の中で、自分が力になれるところはどこかを知り、組織の重要なパワーとして新しいことに参加することで、組織も変化する。」と話されました。更に、講師自身が病院勤務中、専門看護師として外来化学療法センターを立ち上げ、軌道に乗るまでの活動経緯について述べられました。

※受講生からは、「自分の活動やアピールについて、組織を知ること、自分の姿勢を変えることの必要性を考えることができた。」などの感想が寄せられました。

#### 3. 事例発表

「認定看護師の活動状況と課題」 緩和ケア認定看護師 高橋加代子氏 病院の概略、認定を目指した動機、現在の活動、課題について発表

「認定看護師としての活動状況と課題」 皮膚・排泄ケア認定看護師 武田 美幸氏 21年度ケア件数、WOCケア依頼への対応手順や事例紹介、 チームカンファレンスにおける役割などについて発表

「認定看護師としての活動状況と課題」 救急看護認定看護師 小笠原美奈氏認定看護師の役割、実践・指導・相談それぞれに対する活動、社会活動について発表

※受講生からは、「先輩の実践報告は自身の振り返りと励みになった。 他分野の状況を知る機会になった。」などの意見が寄せられました。

#### 4. グループ 討議・発表 (結果を一部抜粋)

- 1)認定看護師の現状及びサポート体制と今後の課題について 5グループ選択
  - 各施設によって立場や役割、活動方法(専任・兼務)、処遇などに違いがあるが、各々が悩みをも ちながら課題と向き合い、役割遂行に努力している。
  - 施設内外の認定看護師同士のつながり(ネットワーク)を大事にする。
- 2) 医療チームとして他職種との連携やネットワーク構築について 1グループ選択
  - 医療チームとして連携することの重要性を知ってもらうために、活動 の評価を数値化、可視化する。
  - 長期的展望を持って理念・方針につなげる活動をする。

参加した認定看護師(31名) の認定分野



■ 救急看護 ■ がん化学療法 ■ 皮膚・排泄ケア ■ 緩和ケア ■ 豚染管理 ■ 感染管理 ■ 集中ケア ■ 手術看護

1

## わたしのまちの看護師さん

#### シリーズ 認定看護師

# 「こまち」紹介

あなたのまちで、いきいきと輝く笑顔で働く 看護師さんに焦点を当てて、

いま、イチ押しの看護師さんを紹介するコーナーです。 毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける 認定看護師さんを紹介します。





#### なぜ認定看護師を目指そうとしましたか?

ストーマ周囲に皮膚トラブルを発症し装具貼付困難な患者 さんに出会ったのがきっかけでした。その後は学習会・研修 会等に参加しストーマケアについて学びました。そしてス トーマケアをしていく中、術前から術後そして退院後も継続 的に関わりたい、そのためにはもっと専門的な知識・技術の 習得が必要なのではという思いが強まり認定看護師を目指 しました。

#### 取得するまでに一番辛かったことは?

研修中は色々な提出物があり、パソコンの操作が苦手だったため、レポートや提出物の作成に時間を要したことです。また想像以上にハードな研修スケジュールについていくためには、精神的・体力(年齢)的にもきつかったと感じたことです。

#### 取得して良かったと思うことは?

現在はストーマの患者さんに関わる機会は少ないのですが、 創傷・オストミー・失禁という分野の中で、予防の大切さ、そし て在宅療養までを見据えて関わるということを学んだことで す。その中でも失禁看護をとおして、人間の基本となる排泄と いう行為の大切さを改めて学びました。疾患や創傷だけでな く、患者さんに向き合う姿勢を大切にしていきたいと思って いることです。



# 武内 春子 さん

2 1 5 File No.07

JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 看護部 認定看護分野/皮膚・排泄ケア

#### この資格をとって、次にやりたいことは何ですか。 また、この資格をどう活かしたいですか?

今は病棟勤務をしながらですが、月1日か2日の割合で透析 センター・形成外科外来と連携してフットケアに関わらせて いただいています。いずれはフットケア外来として足病変の 予防からケアまでの援助をしていきたいと考えています。

#### 資格をとろうかと悩んでいるナースに一言。

資格取得のためには金銭面・家庭環境などの事情により思い切れないという方が多いと思います。私も研修学校に行くと決めるまでに6年ほど悩み、随分遅くに挑戦することとなりました。でも、その時が私の"今"だったのだと思います。自分が行いたい看護、目指したいことをみつけ、一歩前に進むことも必要です。一度職場を離れ、違う環境で学ぶことは自分を見つめ直す良い機会にもなります。"今"を大切に、そして是非挑戦して下さい。





#### なぜ認定看護師を目指そうとしましたか?

以前、手術室に勤務していた頃から感染対策を行ってきましたが、知れば知るほど奥の深い感染管理に魅了され、知識を深めたいと考えました。また、感染対策を推進していくためには、組織横断的な活動が必要なため、その手法やサーベイランスなどの専門的知識を身に付けたいと考え認定看護師を目指しました。

#### 取得するまでに一番辛かったことは?

研修期間中は、課題や試験勉強に取り組む時間がとても多くなり、生活環境も大きく変わりました。それに慣れるまで大変だったと思います。東京で6ヶ月間過ごしましたが、時間的な制約や経済的な理由から、なかなか秋田に帰ってくることができなかったことも、精神的に辛かったですね。

#### 取得して良かったと思うことは?

まずは、施設が違っても、同じ目的を持つ仲間が全国にできたことは、私の財産です。また、感染管理プログラムというものを用いて、感染管理を系統的にとらえ、整理することができるようになりました。組織横断的活動を通して、感染対策やサーベイランスを行っていますが、これも認定取得のおかげだと思います。



# 多田豊一さん

2 1 5 File No.08

JA 秋田厚生連 由利組合総合病院 医療安全対策室 認定看護分野/感染管理

#### この資格をとって、次にやりたいことは何ですか。 また、この資格をどう活かしたいですか?

施設での感染対策の課題は山積していますが、ひとつひと の解決していきたいと考えています。感染防止技術向上の ための研修会やサーベイランスのフィードバック、部署の ラウンドなどを通して、改善に向けた取り組みを強化して いきたいです。また、院外でもネットワークなどを活用し て、地域全体の感染対策の意識向上に寄与していきたいと 考えています。

#### 資格をとろうかと悩んでいるナースに一言。

研修施設には、認定取得のために同じ目的をもった仲間が、全国から集まります。そこでは、専門的な知識だけでなく、全国の仲間とのネットワークを持つこともできます。自施設で悩んでいる時も、仲間と情報交換をして、悩みを共有し解決することもできます。自分自身を見つめ直すいい機会にもなるはずです。悩んでいるのなら、専門分野が違っても大丈夫なので、地域にいる認定看護師に相談してみるのもいいと思います。そして、一歩前に踏み出してほしいと思います。きっと専門分野の世界観が広がるはずです。



# 秋田県看護学会

## メインテーマ 看護の可能性





日 時 2010年11月12日(金) 9:00~16:00

場 所 秋田県総合保健センター

日 程 午前/一般演題発表 (口演10題、示説9題)、

午後/特別講演 「高齢者医療の展望」 佐々木 英忠氏 (仙台富沢病院 顧問

前 秋田看護福祉大学 学長)

参 加 者 217名(会員212名·非会員5名)



## 鳥トキヱ会長 挨拶

第37回看護学会の開催に当たり、ご尽力いただいた学会 委員はじめ会員の皆様に感謝申し上げる。本学会のテーマ は「看護の可能性」であり、特別講演として「高齢者医療の 展望」を準備している。

高齢者医療は、医療・看護と介護が混在することから、行政や地域間の連携、多職者間の連携によるチーム医療の推進が急務である。

予防から専門的治療、在宅までと広い分野で活動している看護職は、地域医療チームの要として期待される役割を果たしていかなければならない。看護協会では、「看護の質の向上」「働き続けられる環境整備」「看護の開発・展開」を目指し取り組んでいる。看護職が専門的な知識・技術を身につけ、看護職がいるから安心して医療を受けられる、暮らしていける、と評価されるように皆様と共に努力してまいりたい。実りある1日となることを祈念する。



### 演題発表

各施設から様々な取り組みの研究発表がありました。昨年よりさらに多くの演題数で、各施設で質の高いケアを提供するための取り組みが、活発にすすめられていることがうかがえました。

#### 口演1群 5題

- 1. 新卒看護職員卒後臨床研修モデル事業の評価と課題
- 2. 急変時対応能力向上のための取り組み ~DVD学習による効果~
- 3. 手術を受ける患者の術前訪問前後の 自己効力感と不安の変化
- 4. 術後患者の離床援助に 離床チェックシートを活用した効果
- 5. 透析患者のフットケアにおける 足観察力向上に向けた取り組み

#### 口演2群 5題

- 1. 帝王切開時のカンガルーケアによる退院後の対児感情と 育児動機の変化
- 2. 初回がん化学療法を受ける患者への看護 - 患者参加型医療インタビューと患者情報シートを用いた 不安喚起条件の検討とアプローチー
- 3. 食道癌の手術を受けた患者が退院後に抱える 生活上の問題点と退院指導への課題
- 4. 認知症患者の生活リズムを整える援助 ~KOMIチャートの読み取りから~
- 5. 脳性麻痺児を持つ母親の想い・体験 - 就学前に整形外科手術を受け歩行状態が改善した 児の母親のナラティヴを通して-

口演発表は10題で、それぞれの発表にいろいろな質問が出され活発な意見交換が行われました。





示説9題

示説発表では、それぞれのブースにたくさんの人が集まり、質問者が順番待ちをしたり、手作り絵本を手に説明を受けたりする場面も見られました。また、「自分たちの業務に活かせるように具体的な質問が次々出され、30分の時間があっという間に過ぎていました」との感想も聞かれました。

- 1. ターミナル期患者の自己決定権を尊重した看護援助 ーベブロウの治療的対人プロセスから看護を振り返ってー
- 2. 内シャント増設術後の改良型創保護具の有効性
- 3. 化学療法施行患者が抱く C V ポートへの不安要因
- 4. 抗がん剤取扱いにおける看護師の認識・実態調査
- 5. 脊髄梗塞患者の仙骨部褥瘡における 便汚染防止に対する工夫
- 6. 婦人科がん疾患の化学療法の副作用による 末梢神経障害の実態
- 7. 口蓋扁桃摘出術を受ける患児へのプリパレーションの実施
- 8. 患者さんに「名のる」ということ ~点滴·注射·採血時の看護師の名のり~
- 9. 生物学的製剤治療中に人工股関節置換術を行った 関節リウマチ患者の看護-県内初の事例を通して-



# 第37回 秋田県看護学会

# 特別講演

## テーマ 高齢者医療の展望

佐々木 英忠氏

(仙台富沢病院 顧問 前 秋田看護福祉大学 学長)



佐々木英忠氏によるユーモアとおもしろい比喩にあふれた 講演は、会場に時折大きな笑いをまきおこし、なごやかな雰囲 気の中で進みました。

「高齢者の医療をどう考えるか?高齢者の幸福をもたらすようにするのが、お年寄りの医療である。」

#### 要介護老人にならないために

要介護老人になり施設に入ると不幸になるという調査結果があるので、要介護老人にならないためにどうするか?というわけですが、1つは、脳卒中を予防するため塩分の摂取量を減らす。塩分の摂取量と脳梗塞死亡率は比例しており日常生活で肉をある程度(あまり食べればコレステロールとかが問題になるが)食べることで塩を少なくする習慣が必要です。2つ目は、運動(肥満の予防)が必要です。学童の10%の肥満

2つ目は、連動(肥満の予防)が必要です。学童の10%の肥満 児がいるが、肥満児はご飯を少なく食べていて、運動が少な い。普通の子はご飯をいっぱい食べて、走り回っており運動量 が多い。これは子供の例であるが、いくら年をとっても運動が 必要である。

転倒者の歩行分析をすると、床からつま先を1cm以内しか上げていない。(若い人は2cm位上げている)これが転倒の原因のため、[転倒予防スリッパ]を作った。スリッパのつま先に重りを入れてあり、これで10分間歩行訓練をした後普通の履物に換えるととても軽く歩ける。このほかにも、脳血管障害で起こる嚥下反射や咳反射の低下に[カプサンシン(トウガラシ)トローチ]を作った。これは食前に舐めてもらうと効果があり、唾液も出る。また、黒コショウを箸の先につけるとその香りで唾液が出て、食欲が増すことから[黒コショウのアロマパッチ]をつくって活用している。老人の肺炎の80%は誤嚥によるもので、肺炎を起こすと20%しか救えない。しかし、口腔





ケアで口を刺激することで嚥下反射と咳反射が起こり肺炎を 半分に減らすことができた。

3つめは、老人は汚い所で生活を。日常生活できれいすぎるところにいると、傷も少なく、普段から細菌にさらされないためいざ感染症にかかるとやつつける「力」が体内にない。老人は、汚い所で生活する。(病院は別)

#### 老人医療の展望

1.老人医療は一元的に:すべての臓器は連動して存在して健康を保っており、すべての臓器が加齢とともに低下していく。 老人医療は一元的に考え、どこにピットフォールがあるか考えそこをちょっと治療して、ADLをアップさせる。

2.薬物療法より非薬物療法:要介護老人で「問題なのが暴れること」、こうした時向精神薬を使うことが多いが、転倒・転落を起こしやすくなり癌の発生も増え、喜びも低下する。向精神薬以外のものを使い大脳辺縁系を刺激することで認知機能を上げていく。

3.成功した老化よりバランスのとれた老化: 衰えた機能を若者並みにすることを目指すのではなく、機能が衰えてもそこでささやかな喜びをみつけバランスのとれた老化を目指す。

講演後の質疑応答では「なんとなくわかっていたことが数字ではっきり示されよくわかった。看護の出番かなと思った。」「先生のお話は難しいことも楽しく聞くことができた。親が認知症で先生の言うことがよく当てはまり、自然にかなった生き方ができればいいと思った。看護職のこれからのケアに生かしたい。」「自然に生きることの大切さと難しさを感じた。楽しくて時間があっという間に過ぎてしまった。」というような感想が出されました。 (記事:中屋 郁)

# 在宅会員交流会報告



目的●看護協会の個人会員が、看護職としてこれまで培ってきた知識と技術を活かし、 地域社会で活躍する方策を考えるとともに、在宅会員の協会事業への参加を促進し、 協会組織の強化を図る。



日時●平成22年8月27日(金)研修会13:30~16:40

場所●秋田県看護センター5階 第一研修室 出席者:17名

内容●1.情報提供「最近の看護協会の活動について」 秋田県看護協会長 鳥トキヱ

- 2. 講演テーマ 「動物の親子の絆から学ぶ」 講師 秋田市大森山動物園園長 小松 守氏
- 3.情報交換

まとめ● この交流会は県内の在宅会員を対象にした企画で、昨年に引き続き2年目となる。会長からの情報提供、動物園長小松氏の講演、情報交換という内容で参加者は17名という状況であった。情報交換では在宅会員の現在の活躍ぶりや看護協会に望むことを話し合うことができ、企画側として大きな収穫が得られたので次の企画に生かしていきたいと考えている。

講演では小松先生が、大森山動物園で実際にあった動物の親子の話を、沢山の美しい映像を交えて「結ぶ」、「こころ」、「伝える」、「自信と安心」という四つのキーワードに添って感動的に話してくれた。動物の子育てからみる母子の絆について、キリン、ヘラジカ、マントヒヒ、アシカ、トラの子を育てた迷犬ノラ等々登場するどの動物も母子のふれあいをなくしては育たないということをしっかりと私たちに伝えてくれた。

児童虐待、白骨化した親の遺体、様々な殺人事件等々枚挙に暇のない現代の疲弊した状況を省 みて深く考えさせられる内容であった。

情報交換は3グループに分かれて、現在どのように活躍しているか等を中心に話し合った。近況として、①ボランティア活動の実践、②小児救急電話相談や協会のボランティア活動に参加、③看護協会後援の県内3地区における地域健康づくり「がん対策シンポジウム」の支援、看護協会員として、看護職としてもっと地域に貢献したい等々前向きで積極的な報告があった。地域には、多くの退職した看護職がおり、免許を生かして社会活動をしたいと思っている人がいること、そして、このような在宅看護職が地域の役に立てるような支援、段取りを看護協会に望んでいることが分かり、交流会でこのことが聞けたことは意義深いことであり、次の企画に取り入れていく必要があると感じている。

# 地区活動報告

# 大館 地区支部



大館地区支部長 菅原 留美子

## 「ボランティアフェスティバル」に参加して

ボランティアフェスティバルは、住民参加型の市の 行事です。社会福祉協議会の主催で行われ、多くの団体 や市民が参加するため、看護協会の活動を理解してい ただくよい機会となっております。

当地区では、毎年「まちの保健室」を行い、健康に関する相談や質問にお答えしております。住民の方々が、自分の健康に興味を持ち、声をかけてくれることが、協会の活動への理解を深めるよい機会となるよう、会員は心をひとつにしてがんばりました。相談後に、「良かっ

た、安心した」の皆さんからのお言葉をいただくことが、私たちの次の活動へのエネルギー源にもなっております。昨年同様、4施設から16名のボランティア参加があり、その笑顔と丁寧な対応には、多くの住民の方々から好評を得ることが出来ました。

これからも、皆さんの健康管理のお役に立てることを願い、地域還元・組織強化につながる活動ができるようがんばりたいと思います。



# 大仙•仙北 地区支部



大仙·仙北地区支部長 安藤 恵美子



## 地区支部活動の紹介

大仙・仙北地区は、昨年度から看護研究に力をいれて活動を 行っております。

県立衛生看護学院の先生を講師にお願いし、「看護研究の基礎」を勉強したあと、同じ講師の先生に今年も講評を依頼しております。また、組織強化に向けて、来年は看護研究の収録を持参し、協会員のいない老人施設数カ所を訪問予定です。そして今年の看護研究発表のあとの講演会には、皆さんテレビでお馴染みの医師でありとてもユニークな、患者さんからとても慕われている木下博勝先生より、看護協会に是非協力させて下さいとのことで、「我が家の秘密の子育て」というテーマでお話ししていただけることになりました。

「まちの保健室」は、大曲の夏まつりに救護班として協賛し、イベントにも看護協会をアピールしながら例年参加しております。

# 由利本荘・にかほ 地区支部

由利本荘・にかほ地区支部長 佐藤 ミツ子

テーマ

## 健康で楽しく毎日をすごすために

お薬や温泉と正しくつき合って、 より楽しく生活しませんか?

会場: 鶴舞温泉

日時:平成22年9月11日(土)13:30~16:00

今年度も、残すところあとわずかになりました。 先日老人看護月間事業として、健康で楽しく毎日を過 ごすためにと題し、薬についての講演と、体に優しい温 泉の入り方、高齢者にもできる健康体操を企画し実施 しました。講師には、由利本荘薬剤師会学術委員長の 佐々木のり子先生、運動指導士・温泉利用指導者の坂本 裕子先生をお招きし、、地域の温泉の広間を利用して、 ゆっくりとした雰囲気の中、開催しました。薬の講演で は、薬とサプリメントの関係など、日頃疑問に思ってい ることが解消できたと喜んでいただきました。健康体 操では、会員・一般の方が一緒になってコリをほぐし、 会場も笑顔と笑いに包まれた時間となりました。また、 温泉にも体によい入り方があると知り、日常生活に関 わり深い話に「とても楽しかった」「今度はこんな話が ききたい」「飽きずに最後まで楽しめ、役に立った」等の 感想を頂き、まだまだ改良の余地はあるものの、地域に 密着した活動ができたと実感しました。今後とも、協 会・会員の皆様の協力に感謝しつつ、活動を推進してい きたいと支部一同一丸となっています。今後ともご協 力宜しくお願いします。







ふれあい看護体験「一日まちの保健室」も管内4病院の ご協力のもと、無事62名の高校生の体験を終了いたしま

した。今年は、卒業したら 地元の病院に戻って働き たいという学生の非常に 嬉しい声がきけてとても 心強く思いました。

これから迎える公益法 人化に向けて、出来るだけ 会員以外の方や、一般の人 にも沢山参加していただ ける事業計画に向けて取 り組んでいるところです。





# WORK LIFE BALANCE

# ワークライフバランス実現のために 「変わる・行動する | を目指して

ワークライフバランス《仕事と生活の調和》とは、個人それぞれのバランスで、「仕事」と「生活」の両立を無理なく実現できる状態のことです。仕事と生活を調和させることで、両者間に好ましい相乗効果を高めようという考え方とその取り組みをさします。 (Are You Happy?より引用)



(ワークライフバランス:以下[WLB]と表記)

職場環境の在り方をめぐっては看護現場に関わらず、社会全体の大きな課題として取り上げられてきております。家庭生活での役割、地域社会での活動、そして職場で求められること・なすべきこと、これらを調和させ充実した生活を目指すためには、どう考え・行動に繋げたらよいのでしょうか。

とりわけ看護の世界は、せっかく看護の職に就いても、「看護の仕事は好きだけれど、もう少し家庭での時間や役割を大事にしたい。」「仕事がきつくなって健康に自信が持てない。」などで、退職・転職を考え、現場を去る人が多い現状です。

そのため、看護の現場では常に看護職の不足に悩ま されている状況があります。

反面、看護職は昼夜を問わず人の生命と向き合う仕事であり、その崇高な使命感から、職業として選択し、毎日の仕事にやりがいや生きがいを実感し働いている人も多くおります。

また、私たちには様々な生活の移ろいがあります。す てきな人との恋愛、結婚、大切な生命との出会い、育児 や家族介護など、家庭や地域社会の中での生活場面があります。

そうした中で、日本看護協会は「短時間正職員制度」 など多様な勤務形態による就業促進事業を進めてきま した。

また、2007年から3カ年計画で取り組んできた「看護職確保定着事業」の影響もあり、病院勤務看護職の離職率、9.3%から8.9%に、全常勤看護職の離職率は12.3%から11.9%に改善されております。その陰には「看護職に変則・夜勤・長時間勤務はやむなし」の見方の多い状況の中で、様々な事情を抱えつつも、仕事と生活の調和を目指しての相互工夫や、離職した看護職の仲間を迎え入れるための、職場の取り組みへの努力がある結果といえます。

社会経済福祉委員会は「看護あきた」の広報誌を活用し、県内病院・施設のWLBへの取り組みなど、WLBに関する情報発信をしていく予定です。

ご覧になった皆さまからご意見などをお寄せいただければ幸いと考えます。

社会経済福祉委員会 委員長 松橋廣巳

記事

## おらほの

# 施設自慢 vol.32

## 北秋田市民病院

看護師長 中嶋美枝子







思いやりの心がザインに込めたカラーユニバーサル

当北秋田市民病院は、豊かな水と緑に恵まれた「北欧の杜公園」内に市民及び近隣地域の人々に専門かつ良質な医療を提供する中核病院として

- 1,効率よく医療を提供する機能性
- 2, 患者、スタッフが使いやすく、居心地の良い居住性
- 3, 災害時も機能維持する建物構造による安全性
- 4,将来の医療の変化に対応し成長し続ける柔軟性
- 5,北欧の杜公園との一体化など環境に配慮した エコホスピタル

など様々な機能を兼ね備えることをコンセプトに市民 や社会のニーズに末永く応えるために建設され4月1 日オープン致しました。

外観は自然と調和し、伸びやかな曲線形状で暖かい色合いの外壁で、何より正面から入ってすぐ、目に飛び込んでくる鮮やかな「赤、黄色、空色、青」のカラーユニバーサルデザインの壁の色です。2007年秋から業界で使われ始めていた色で「色のバリアフリー」といわれ、最近では高齢者や色覚障害の方達に配慮した色ということで、「カラーユニバーサルデザイン」の製品開発や、建築、印刷業界でも取り組みが拡大してきています。

それらの色が病院の外来、病棟、病室、トイレに至る所までふんだんに使われているのは、とてもめずらしく、すばらしい事です。モデル病室説明会の際、黄色の配色に難色を示した職員達に熱心に説明され、私の「ユニバーサルカラーですよね」の言葉に、担当者の方がにつこりとされた時の事が、昨日の事のように思い出されます。院内を見渡すと、デザインされた方の「熱い思い」が伝わってきます。そして、総合案内で来院される患者様に「黄色の壁の所が整形外科の受付です」「赤い壁の所が患者様専用エレベーターです」等とご案内し、分かって頂くと「ふっと幸せな気持ち」になるのは私だけではなく、他の方々も同じだと思います。また、病棟食堂からは森吉山を眺望できる、すばらしい景観が広がり、患者様や、ご家族とのくつろぎの場となっています。

どのようなすばらしいコンセプトの基に建物が建設されても、誰もが100%満足できる建物はないと思います。しかし、その100%に満たない所を埋めて行くのが、そこに働く私達職員なのだと思います。かつて北秋中央病院時代、80年という年月をかけ地域に根ざした医療を積み重ねて来たように、地域の方々のご支援をいただきながら、共に一段一段積み重ねていきたいものだと思います。カラーユニバーサルデザインに込められた地域住民への思いやりの心は目に焼き付いて下さると信じています。

# 新シリーズ リレー紹介

# がている人

秋田で安心して出産・育児ができる環境づくりに取り組んでおります。

No.2で登場していただく方は 助産師の原田由香利さんです。

中通総合病院 は50 だ 90 かり 原田 由香利さん

私の職場は、産婦人科・小児科そして眼科の手術患者 さんなども入院される混合病棟です。

そんな私の職場で、今、取り組んでいる事を少し紹介 したいと思います。

私が入社した当時は年間1000件以上もあった分娩ですが、今ではその4分の1となりました。病棟再編の中で小児科とも一緒になり、周産期に関わるパートナーとして情報交換や合同学習会を開催しながらスキルアップを目指しています。

この10月からは新生児蘇生法1次コース修了者が、実際の講習会に準じたプログラムを病棟版として作成し、受講できなかったすべてのスタッフにチャレンジしてもらっています。

また、昭和63年に始めた「なりたて母の会」も今年で23年目を迎えました。

産後の継続ケアの一つとして始めた病棟主催の育児

教室ですが、情報交流の場としては勿論、母親達のこれまでの育児の日々を認め、明日からのパワーを充電する「場」にもなっている事を実感しています。子育てサポーターは母親達の身近にいる事、育児は一人でがんばらなくてもいいよ!という事を伝える・気づいてもらう「場」でもあります。

今、病棟では、「命を慈しむ心」の支援として妊娠初期に焦点をあてたケアプログラムの作成中です。病院で働く助産師も外にでて活動する場は広がってきていますが、同時に、自分のいる「場所」で何ができるのかを考え丁寧に取り組む事も大切な事であると感じています。スタッフ一人一人の目標や取り組みを支援しながら、スタッフのきらっと輝く瞬間を見逃さない管理者でありたいと思っています。

助産師は明日の社会をつくるこどもの、一番身近に いる母となる人にかかわる仕事。

そこに職業としての素晴らしさがある事を以前一緒 に働いていた大先輩の看護師長さんに気づかせてもら いました。

こどもの虐待や育児放棄など深刻な社会問題となっていますが、小さな命の尊さを伝えられ、「一緒に育っていこう」と母親達にそっと寄り添える一人の助産師でもありたいと思っています。





#### バトン「私が紹介する方」

地方独立行政法人 秋田県立病院機構 脳血管研究センター 副師長 看護師の「佐々木美和子」さんです。

佐々木さんは、仕事をしながら大学院 で修士を取得し、現在、急性期脳卒中医 療の現場で活躍しております。

# 環境・保健事業

Meritorious Deeds

平成22年度

功労者表彰

Commendation Ceremony

# おめでとうございます。

平成22年10月22日(金)、秋田県庁にて、平成22年度環境・保健事業功労者表彰式が行われました。

# 平成22年度 環境・保健事業功労者表彰式



環境•保健事業	功労者表彰 受彰者 (順不同)
米 山 厚 子	北秋田市民病院 看護師長
月 澤 惠 子	平鹿総合病院 保健師主任
佐 野 淳 子	秋田社会保険病院 看護科長
松 本 廣 子	中通高等看護学院教務
工 藤 一 子	(社)秋田県看護協会 事業部教育研修係長 専任教育担当
石 川 セツ子	(社)秋田県看護協会 訪問看護ステーションあきた管理者

当協会から第一副会長 佐藤ヨシ氏が、来賓として同席いたしました。(写真右端)

平成23年度予算から、秋田県看護協会会計の中に、 地区支部会計が組み込まれることになっております。 そのため、平成23年度から地区支部の事業運営及び 予算の執行が変わります。

# シリーズ 公益社団法人 化に向けて Vol.4

## **Q1** 地区支部は、23年度から会計が県協会に編入されるが、 どのように変わるのですか。



まず、大きな変化は、23年度から地区支部会費500円がなくなります。そして、この地区支部会費が県協会費に組み入れられて、県協会費が6.000円になります。

これは、理事会及び平成22年度県協会定時総会で承認されておりますが、平成22年11月19日の理事会で定款細則第6条を、「・・・本会の会費6,000円・・・」と改正され、正式に運用することになりました。

会員の皆様からは、23年度会費としてこれまでと同額の11,000円納入していただき、県協会で、6,000円を収入とし、日本看護協会へ5,000円納入します。会員の皆様からご理解をいただきたいと思います。



## **Q2** 地区会費が無くなると、地区支部の活動はどうなるのですか。



地区支部の会費は無くなりますが、地区会費相当額と地区支部助成金については、地区支部の財源として保障することにしています。そして、これを収入として、地区支部の事業計画及び予算を提案していただきます。 事業計画及び予算は、理事会の承認を得て、平成23年度定時総会で、決議していただくことになっております。 地区支部事業計画及び予算の作成につきましては、できるだけ地区支部の意向を尊重していきたいと考えています。

## **Q3** 地区支部の事業計画及び予算が県協会総会の決議事項になるとすれば、 地区支部総会はどうなるのですか。



地区支部の組織、運営及び役員等については、22年度県協会定時総会で承認された骨子に基づいて、法人改革準備特別委員会において、審議しています。

その中で、地区支部の総会については、県協会の総会と同じ名称を使用できないという国の指導があり、新しい名称を検討しています。

また、地区支部の事業計画及び予算につきましては、地区支部総会にあたる会議で、会員の皆様に周知し、会員の皆様から、1年間の事業活動について理解を得、積極的に参加する気運を高める場とすることになります。

地区支部総会にあたる会議では、他にも審議する事項がありますが、この点につきましては、次回以降に述べさせていただきます。

# 委員会からのお知らせ

## 【役員(理事・監事)・推薦委員の推薦のお願い】

平成23年度改選役員候補者等の推薦を公募いたします。

- 1.推薦基準 (1)秋田県看護協会の目的に沿って、組織を強化・発展させるよう実践できる人。
  - (2)秋田県看護協会事業に熱意を持って、協同できる人。
  - (3)本会の実情に合わせて、定例会に参加できる人。
- 2. 推薦方法 推薦用紙に記入し郵送でお願いいたします。 秋田県看護協会ホームページからダウンロードしてご使用ください。
- 3.宛 先 秋田県看護協会推薦委員会 委員長 難波はつ子親展
- 平成22年12月10日(金)~平成23年1月20日(木) 4. 受付期間

#### 5. 平成23年度改選役員および人数

平成23年度通常総会で選仟する理事:監事及び推薦委員の人数は次のとおりです。 任期は、平成23年度通常総会から平成25年度通常総会までです。

(1) 役員 理事10名 監事1名

今回改選理事

- ①第二副会長 1名 ②書記理事 1名 ③保健師職能理事 1名
- ④助産師職能理事 1名 ⑤教育理事 1名
- ⑥地区理事5名(鹿角、大館、北秋田、能代·山本、秋田臨海)

#### (2)推薦委員会 委員3名

【改選委員 ①北秋田地区 1名 ②秋田臨海地区 1名 ③大仙·仙北地区 1名】

### 立候補について

立候補する方は、正会員5人以上の推薦を受けて届出してください。(定款細則第18条第3項) なお、届出用紙については秋田県看護協会ホームページからダウンロードしてご使用ください。

# INFORMATION 協会からのお知らせ

## 「看護覚え書」映像制作費用協賛へのお礼

ナイチンゲールの著書「看護覚え書」の映画化にあたり、連絡員長さんを通しお願いしていた募金がこのほどまとまりました。期間が短かったにも関わらず多額の募金が集まりましたのは、連絡員長さん方のご努力と会員の皆様のご協力のお陰です。振込直後に川嶋代表から、烏会長あてにお礼のお電話も頂きました。皆様の温かいお気持ちに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

募金総額 616,780円

## 秋田県議会がん対策推進議員連盟との懇談会が開かれました。

平成22年9月27日(月)県議会大会議室において、烏会長外5名の理事が出席し、がん医療において看護職が果たしている役割、今後の課題等について意見を述べてまいりました。(意見:①保健活動における検診の課題 - 県内の検診率が下がってきていることから市町村保健師の役割が重要である。②医療施設における治療・看護の課題 - 非常に高度なケアをしているので、医師も足りないが、看護師も足りない。認定看護師の活動は、医師・看護師から高い評価を受けているものの認定看護師も専門看護師も秋田県では不十分であり育成が必要である。③在宅看護の課題 - 24時間ターミナルケアを実施しているが、訪問看護では1施設1日3回までしか訪問できないということで、家族負担を軽減できるよう、もっと訪問回数を増やすような診療報酬の改定を望みたい等)

# 11月28日(日)秋田大学医学部創立40周年記念 講演会・式典・祝賀会が開催され、会長が出席しました。

祝賀会では、浅沼保健学科長から保健学科設立時の看護協会の貢献について感謝の言葉をいただきました。



# なんでもメッセージ

看護協会へのご意見・ご要望、看護あきたで取り上げてほしい話題・お知らせ等々、なんでも結構です。ご自由に記入して、FAXで送信してください。

TEL	FAX		部署•部門名
お名前		病院•医院名	

社団法人秋田県看護協会

FAX.018-835-9522

# INFORMATION 事務局からのお知らせ

## 衛星通信対応研修のご案内

医療現場を悩ます 12月10日(金):11日(土)開催 定員70名 クレーム・暴力のマネジメント

災害医療と看護 1月14日(金):15日(土)開催 定員70名

生活をつなぐ退院支援 2月4日(金):5日(土)開催 スムーズな地域連携のために

上記研修の場所は、いずれも秋田県看護協会5階第1研修室です。申込枠にまだ空きがありますので ふるってご参加下さい。

申込は教育計画冊子の「様式2」に必要事項を記入の上、下記あてFAXにて送信して下さい。

事業部直通☎018-831-8020 FAX.018-831-8023 E-mail; a.kango.kyouiku@jupiter.ocn.ne.jp

## 平成23年度入会申込受付中

平成23年度入会申込を平成23年9月末日まで受付しております。ご入会をお待ちしております。

#### お知らせ

平成23年度会費については、地区支部会費の区分がなくなり県協会費に一本化されることになります。



日本看護協会費 5,000円 秋田県看護協会費 6,000円 11.000円 計

秋田県看護協会 会員管理担当☎018-834-0172

今回掲載された文章や写真、個人 名・団体名については個人情報保護 法の下、他の目的には一切使用いた しません。

編 後

千秋公園の鮮やかな紅葉も色褪せ、季節は冬へと向かっております。 さて、看護あきたでは職場・がんばっている方など掲載しております。 「是非、紹介したい」と思う方は、事務局までご一報ください!! また、取り上げられたらおもしろいと思うことやアイディアも大歓迎です。 みんなで『看護あきた』を作り上げていきましょう。 (記:中川久美子委員)

定員70名

# 看護あきた Vol.102 平成22年度 3号

Nursing Akita



発 行 日/平成22年12月13日 発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長

発 行 所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印 刷 所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577